

結成20周年  
新たな大躍進  
に向け出発!

# 月刊 動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合  
〒260-0017 千葉市中央区要町2番8号 (動力車会館)  
電話 (鉄電) 千葉 2935・2939 番  
(公) 043 (222) 7207 番  
2000.6.5 No. 5144

## 闘いの原点、誇りを

## 譲ってはならない



5月29日、自民党など与党三党と社  
民党は、一〇四七名の採用差別問題に  
ついて「解決の枠組み」をまとめた。そ  
の内容は、「JRに法的責任がないこ  
とを国労が認め、臨時大会で決定する」  
というものだ。

同日国労は中央執行委員会を開催し、  
高橋委員長が「大会方針や闘争団、支  
援共闘の思いにも反する」と、反対を  
表明する状況のなか、賛成多数でこれ  
を受け入れることを決定し、7月1日  
に臨時大会を召集している。

### 「四党合意」の内容

与党三党・社民党の「打開案」とは次  
のようなものだ(全文)。

1. JR不採用問題の打開について  
いって、人道的観点から、自由民  
主党・公明党、保守党及び社会  
民主党は、以下の枠組みで、本  
問題のすみやかな解決のため努  
力することを確認する。
2. 国労が、JRに法的責任がな  
いことを認める。国労全国大会  
(臨時)において決定する。
3. 国労の全国大会における決定  
を受けて、「雇用」「訴訟取り  
下げ」「和解金」の3項目につ  
いて、以下の手順で実施する。  
(1) 与党からJR各社に対し、

- 国労の各工リア本部等との話  
し合いを開始し、人道的観点  
から国労組合員の雇用の場の  
確保を検討してほしい旨の要  
請を行う。
- (2) 社民党から国労に対し、少  
なくともJR発足時における  
国鉄改革関連の訴訟について  
2の機関決定後すみやかに取  
り下げるよう求める。
- (3) 与党及び社民党の間で、和  
解金の位置づけ、額、支払手  
法等について検討を行う。
4. 与党及び社民党は、上記方針  
に基づき、本問題の解決に向け  
お互いに協力していく。

### 闘争団・現場からは 次々と反対表明が

この決定に対し、国労闘争団の仲間  
をはじめ支部・分会など現場からは、  
国労本部に対する抗議声明や撤回要求  
意見書が続々発出されている。5月31  
日現在でも北海道の11闘争団が反対を  
表明し、九州でも筑豊闘争団、熊本闘  
争団などが抗議文を提出している。

それらの意見書では、▼「この決定  
は国鉄闘争13年を無にし、闘争団や家  
族、支援者、組合員、更に労働運動に  
対する裏切りであります」▼「あまり  
にも無防備な『全面屈服』路線、『闘い

の放棄』であると言わざるを得ません」

▼「本部決定は国鉄闘争の根本的な方  
針と路線を変更する重大な違反行為、  
組合員への背信行為である」▼「この  
報道の真実を讀むうち驚きと落胆で気  
力を失いかけたほどである」▼「これ  
を呑むということは敗北宣言にも等し  
いものと言え『全面屈服』である」▼  
「まさに国労が使用者の首切りを容認し、  
日本の労働委員会制度を放棄したもの  
と言わざるを得ない」▼「私達闘争団  
員そして組合員には一切内容を伏せた  
まま、本部の独断でこのような重大な  
問題が決定された。組合民主主義を破  
壊するような行為を絶対許せない」等  
々、必死の思いが記されている。

また国労は、31日に全国代表者会議  
を開いたが、その場でも「何をしてい  
るのか、血迷ったかと思った。全面武  
装解除は認められない」「到底受け入  
れられない。日本労働運動を守る構え  
をもつべきだ」等の意見が相次いだ。

### 「四党合意」受入れ は何を意味するか

「四党合意」の最大の問題は、「J  
Rに法的責任がないことを国労が認め  
臨時全国大会を開催してそれを決定せ  
よ」と迫っていることにある。  
この間政府・自民党は、「国鉄改革

法の承認」を国労に迫り、大会決定さ  
せたが、これは「政府に国には責任な  
し」を承認させたことを意味する。そ  
して今度はJRにも責任がないと認め  
るといふのだ。「どこにも責任などな  
いと大会決定しろ」ということは、採  
用差別や不当労働行為など存在しな  
かったと認め、原点を放棄してこの十  
余年の闘いの全てを自ら否定しろ、と  
言うに等しいことだ。

政府にもJRにも責任がないとした  
ら、職場を追われた20万人の国鉄労働  
者、200人の自殺者、動労千葉や国労  
に所属していたというだけでJRへの  
採用を拒否された7千人の仲間たちの  
存在は一体何だったというのか。われ  
われは、天地がひっくり返ろうと、こ  
んなことを認めるわけにはいかない。

### 団結権・未来・誇り

そもそも、膨大な国鉄労働者が首を  
切られ、組合潰しの攻撃が嵐のように  
吹き荒れたのは、事実問題であって、  
あったとか無かったとか、認めるとか  
認めないとか、大会決定すべきような  
事柄ではない。それを「大会で決定せ  
よ」と迫っているところに、「四党合  
意」の不当性、理不尽さが最も鮮明に  
表れている。この「四党合意」自体が、  
最も悪質な支配介入であり、不当労働  
行為に他ならない。

一〇四七名を先頭とした十有余年の  
闘いは、団結権をはじめとした労働者  
の基本的な権利をかけた闘いであり、  
未来をかけた、誇りをかけた闘いであ  
った。それを侵害したのは政府・JRだ。  
われわれは、「政府にもJRにも責任  
はない」などと認め、この間の闘いの  
一切を否定し、労働者の団結権・未来  
・誇りを捨て去ることはできない。